＝広島大学＝

グループディスカッション実践セミナー

広島大学はこのほど、これから就職活動を始める学生対象の支援セミナーとして、「グループディスカッション実践セミナー」を開催した。セミナーは1回あたり定員12人として全13回実施し、延べ126人が参加した。

「グループディスカッション」とは、近年、企業や官公庁などの採用試験で多用される討論会形式の選考方法。5～10人程度のグループに分かれて、特定のテーマについて討議し、学生が持つリーダーシップ、コミュニケーション能力、論理性などを判定する。導き出された結論もさることながら、途中経過において司会者、記録者、時間管理者などの役割分担を決め、チームワークにより円滑に進めることも、採用者側の重要な評価ポイントとなる。通常、大学で行うゼミでの討論、プレゼンテーションなどとは趣を異としており、実践機会も少ないため、学生からの開催実施の要望が多く寄せられていた。

セミナーでは、「リーダーに必要な要素とは何か」「最近1カ月の経済ニュースで気になったことをあげ、理由とともに述べよ」など、さまざまなテーマについて討議し、各グループで結論を発表した後、企業の人事経験を有するキャリアアドバイザーや職員が、リーダーシップ・協調性・論理性・表情や声の大きさなどについて、個々の学生にきめ細やかな指導を行った。

グループディスカッションをする参加者

＝広島大学＝

留学生インターンが「国際交流企画」実習

広島大学で「グローバル化支援インターンシップ」（恒松直美国際センター准教授担当）を受講する広島大学短期交換留学プログラム（HUSA）の留学生インターン（中国・台湾出身）および「多文化共生の地域づくり実践研究プロジェクト」（HUSAプログラム企画）の留学生チーム（アメリカ出身）が2月21日、瀬戸内海倉橋島の呉市倉橋町で開催された「倉橋フェスティバル」に参加し、「国際交流企画」実習に挑戦した。会場では「広島大学国際センター」と掲げたテントを設営し、地域の方々と心温まる交流の場を持った。HUSA留学生による倉橋フェスティバル参加は2回目。

国際交流企画として、「中国の紙切り飾り作り」「カウボーイ姿での写真撮影（顔出し看板作成）と塗り絵」「アメリカのイースターエッグの絵付け」を実践し、地域の小さな子どもから年配の方までが楽しめる企画となった。またフェスティバル・ステージで留学生の紹介を行い、餅まきにも参加した。

ステージで紹介される留学生

＝広島大学＝

全学留学生会 冬のバスツアー

雪遊びを通じて交流を楽しむ参加者

広島大学全学留学生会は2月6日、「冬の国際交流バスツアー」を開催し、広島県立もみのき森林公園を訪れた。留学生と日本人学生合わせて99人の参加者は、見渡す限り真っ白な雪で覆われた場所で、雪遊びを通じた交流を楽しんだ。

生まれて初めて雪遊びを体験する留学生も多く、広島の豊かな自然を体感する良い機会となり、またバスの中では、参加者が自己紹介・母国紹介をしたり、各国の音楽を流したりするなど、異国の文化に浸る一日になった。

＝山口大学＝

メンテエキスパート養成成果報告

山口大学工学部は1月27日、山口グランドホテルにおいて、社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座（ME山口）の事業成果報告会と特別講演会を開催し、主に山口県内の産業界や行政から約80名の参加があった。

報告会では、進士正人工学部長の開会挨拶に続き、麻生稔彦教授（理工学研究科）から「事業の意義と概要」、渡邊学歩准教授から

＝山口大学＝

台湾の大学から研修生を受入れ

山口大学は1月28日、29日の両日、学術交流協定校である台湾大葉大学の教育専業発展研究所から、現職の小・中学校の教諭である大学院生22名を受入れ、日本の教育制度に関する研修を実施した。昨年に引き続き2度目の実施となるこの研修は、実際の日本の教育現場の見学や、教育制度に関する講義を通じて、日本と台湾の教育の違いについて理解を深め、研修で得た知識を、研修生自身の教員